

男子第二部

準決勝戦第1試合

準決勝戦第1試合は、昨年第1部常連の近畿通関対大阪刑務所との対戦。昨年惜しくも第1部から抽選により第2部に落ちた近畿通関は、ここまで一戦も落とさず快調に勝ち進む。対する大阪刑務所は、昨年第3部準優勝により第2部に昇格。ここまで接戦をものにして勝ち上がる。

先鋒戦。

右組みの両者、鈴木は土井の奥襟を押さえ、有利に試合を運ぶ。2分7秒、鈴木の大内刈が決まるが、わずかに場外となる。その後の2分31秒には鈴木が右払腰で一本を奪う。

次鋒戦。

両者右組み。山川は大内刈で攻め、小兵の黒鳥は背負投で攻めるが、共に決め手を欠く。1分9秒に山川に、2分15秒に黒鳥にそれぞれ指導1が与えられるが、共にそれ以上のポイントを奪えず引分け。

中堅戦。

右組手の両者の対戦ながら、元気一杯の井出は吉田を圧倒し、1分54秒、大外刈で吉田を仕留める。大阪刑務所が2点先取し、王手を懸ける。

副将戦。

砂原右組み、松本左組みのケンカ組手。何としてもタイに持ち込みたい近畿通関は、砂原が組手争いを制し、積極的に攻撃を重ねる。1分59秒、2分33秒に有効を奪う。守勢の松本は1分59秒に指導1、2分40秒に指導2を受ける。しかし、砂原の必死の追撃もここまで。無情のブザーが鳴って大阪刑務所の決勝戦進出成る。

大将戦。

ケンカ組手、左引手を何としても握りたい殊玖は引手を求めるが、容易に果たせず攻めあぐね、そのまま時間を迎え引き分ける。

(先鋒) 土井 龍司 3段	払腰	鈴木 康太郎 4段
(次鋒) 山川 陽平 2段	引分	黒島 陽樹 3段
(中堅) 吉田 憲生 4段	大外刈	井手 保宏 4段
(副将) 砂原 芳徹 3段	⊖ 優勢勝	松本 亮佑 3段
(大将) 殊玖 龍市 4段	引分	阿部 健太 4段

[準決勝戦第2試合]

男子第2部準決勝戦第2試合は、副将諸見里、大将船津の活躍で順当に勝ち上がり、第3回戦で強豪東レを圧倒した日経サービスと対戦。ここでも諸見里、船津の副将、大将コンビが無類の強さを発揮し、逆転勝で初の決勝進出を果たした。

日経サービス 2 - 3 奈良少年刑務所

(先鋒) 吉本 幸紀 3段	体落	竹村 俊哉 4段
(次鋒) 川原 良太 3段	⊖ 優勢勝	森本 良 2段
(中堅) 尾見谷竜一 3段	小外掛	迫田 壮輔 宏 3段
(副将) 中野 哲也 3段	支釣込足	諸見里真経 3段
(大将) 折田 雄介 3段	合せ技	船津 正貴 3段

決勝戦

刑務所チームの決勝戦、共に初優勝を目指す。

先鋒戦。

試合開始早々から、一回り体格で上回る右組みの鈴木が、左組みの竹村に対し攻勢に出る。防戦一方の竹村に、42秒指導1、1分21秒指導2、2分40秒指導3が与えられる。後の無くなった竹村であるが、その後も守勢が続き、遂に3分21秒に反則負けが宣告される。

次鋒戦。

序盤は左右のケンカ組手から、引手を制する機会の多い黒鳥の手数が優り、1分吉田に指導1。その後も黒鳥の手数が上回るが、2分1秒にその黒鳥の仕掛

けた技を、吉田が小外掛から体を預けると、黒鳥は真後ろにもんどりうって倒れ一本。

中堅戦。

共に右組み、暫しの組手争いを経て、奥襟を狙う迫田に対し、右前襟を掴んだ松本が開始 2 2 秒、飛び込んで払腰に迫田の右太腿を払うと迫田は大きく回転して落下。一本勝で大阪刑務所が再びリードを奪う。

副将戦。

体重差 3 9 k g、巨漢の諸見里は松本が 3 9 秒に内股を仕掛けたところを潰し、伏せた松本を場外際で巧みに裏返して、4 7 秒に横四方固でがっちり押さえ込む。2 5 秒経過して一本。男子第 2 部の決勝戦は一本勝の応酬、抜きつ、抜かれつの好一番となった。

大将戦。

雌雄を決する大将戦。体重で上回る船津が左組みから圧力を掛け、防御姿勢になった右組みの阿部に 2 6 秒指導 1。その後も守勢の続く阿部に、2 分丁度に指導 2。その後は、リードして安全運転に転じた船津に 3 分 1 9 秒指導 1。そのまま時間となり、奈良少年刑務所が初優勝。

大阪刑務所 2 - 3 奈良少年刑務所

(先鋒) 鈴木 康太郎 4 段	反則勝	竹村 俊哉 4 段
(次鋒) 黒島 陽樹 3 段	小外掛	森本 良 2 段
(中堅) 井手 保宏 4 段	払腰	迫田 壮輔 宏 3 段
(副将) 松本 亮佑 3 段	横四方固	諸見里真経 3 段
(大将) 阿部 健太 4 段	優勢勝 ⊖	船津 正貴 3 段